

第4期まちづくり市民会議

関市がもっといいまちになるための提案書

2016年7月16日



関市まちづくり市民会議の歩み

まちづくり市民会議（以下、市民会議）は平成 24 年からはじまりました。今期、第 4 期関市まちづくり市民会議は、平成 27 年 10 月にスタート。毎月 1 回第 3 火曜日に全体会、そして必要に応じて部会を開催し、これまで 10 回以上の会議を重ね、今回の政策提案に至りました。

市民会議の目的は、市民の参画と協働によるまちづくりを推進するため、市民の視点から市が抱える課題を洗い出し、課題解決のための様々な事業を提案することです。

市民会議の委員は、17 名の公募の市民により構成されています。20 代～70 代の幅広い年齢層となっております。

今期の市民会議は、これまでと違い実践に重きを置きました。関市の課題を考え、それに対する解決策を考え、実践してみた結果を元に関市への政策提案を行います。実践をしたことで、政策に説得力が増すとともに、その政策を実行する主体についても実体験を元に検討する事ができています。

部会名	取組む課題
チーム「大学生が知らない関の世界」	大学生が関の魅力を知らない
チーム「KJB（観光循環バス）計画」	観光向け公共交通機関がない
チーム「子援隊（しえんたい）」	生活困窮家庭の子どもの学力向上

〈まちづくり市民会議の歩み ～全体会～〉

	開催日	会議内容
第 1 回	平成 27 年 10 月 17 日	問題意識の発表会
第 2 回	11 月 28 日	京都視察(京都未来まちづくり 100 人委員会)
第 3 回	12 月 19 日	部会分け、地域課題を議論する
第 4 回	平成 28 年 1 月 16 日	目指す姿・課題の原因を考える、行政へのヒアリング
第 5 回	2 月 20 日	事業を考える
第 6 回	3 月 19 日	事業を考える、事業の実施方法を考える
第 7 回	4 月	部会活動 事業の実施方法を考える
第 8 回	5 月 21 日	部会活動 事業の実施方法を考える
第 9 回	6 月 18 日	政策提案を考える

まちづくり市民会議の提案は？

これまで第1期～第3期のまちづくり市民会議から市へ政策提案を行いました。各提案の概要と、その提案に対して担当課から出された回答を紹介します。

※採用された提案(マーク付)については実施状況を記載しています。

※第1期、第2期は、平成27年度時点での状況、第3期は、平成28年7月現在の状況となります。

【第1期】



「親子読書コンクール」(学校教育課)

概要) 夏休みに、親子で読書をし、その本の感想を親子で共有します。そして親子読書の様子を発表するコンクールの開催を提案します。

結果	採用
実施状況	平成25年8月27日に「ファミリー読書発表会」を開催しました。学校等から推薦のあった家族(3～4組)の発表、図書館教育推進校の指定を受けている学校の発表、市立図書館の取組についての発表をしました。 今年度は8月27日(木)に開催します。



「子どもたちの地域間交流」(学校教育課)

概要) 市内の小学生が、関市内の各地域の魅力を知るために、旧関市内と合併地域とで交流事業を実施することを提案します。

結果	不採用(既存の事業を拡充します)
担当課からの回答	平成24年度から行っています「中学生リーダー養成研修会」において、例えば武儀・上之保地区を巡って、その地域の自然や文化等を題材にして交流を図るなど、工夫して実施したいと思います。



「学校のHPの改革」(学校教育課)

概要) 学校への理解者を増やし、自校の教育活動をより活発化するためには、まず、学校が生きた情報を出し続けることが必要であり、そのために、教師とPTA、子どもたちが力を合わせて学校のホームページを作成することを提案します。

結果	採用
実施状況	HP運営について、新しい情報を容易にかつ迅速に掲載できるように、平成26年度に、市内30校が基本的に同じフォームになるHPの作成をしました。

提案
4

「SNSを活用した親と教師・学校をつなぐコミュニケーション」(学校教育課)

概要) 親と教師のコミュニケーションを図るために、Facebook グループ等のSNSを活用する。

結果	不採用
担当課からの回答	「親と教師・学校をつなぐコミュニケーション」は非常に重要なことです。顔を合せて話すことが最も基本的で大切な方法だと考え、各学校では、保護者が学級担任以外の職員にも気軽に相談できるよう、年度当初のPTA総会や案内文書で積極的に相談窓口等を紹介しています。SNSもコミュニケーションの一つの方法ですが、互いの真意を伝えることが難しいことが一番の課題と考えます。また、送信するのは気軽にできる反面、同時期に多数の質問や意見等が学校に寄せられた場合、その一つ一つに丁寧に対応しようとするとどうしても時間がかかり、迅速に対応できなくなることも十分に考えられます。

提案
5

「子ども、親、教師が参加する学校対抗の行事」(学校教育課)

概要) 日常的に学校の情報を共有することは大切だが、親、子どもと教師が一緒になって行事に取り組むことで、心の一体感が生まれる。そこで、親、子ども及び教師と一緒に活動に取り組む機会がなかなかなかったことを踏まえ、誰でも参加できる軽スポーツ(たとえば、綱引きや玉入れ)を学校対抗で行うことを提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	子どもと親と教師が一堂に会し、学校対抗を行う行事の開催は難しいと考えています。現在、「連合音楽会」(小・中)やタグラグビー(小)、水泳記録会(小・中)、「わたしの主張大会」(中)のほか、スポーツ少年団や中学校部活動の各種大会など通して、学校間の児童生徒の交流が行われていますが、この交流がさらに豊かなものになるよう働きかけをしていきたいと思っています。



「関シティバス・デマンドバスの導入」（市民協働課）

概要）利用者の移動目的に合った地域公共交通を提供するため、デマンドバスの導入を提案します。

結果	採用
実施状況	現在 4 地域（富野、田原、迫間、向山）で導入している簡易型デマンド運行バスは、10 人から 15 人乗りのワゴンを利用し予約に応じた運行を行っております。 現在、定時定路線で運行している関シティバスの中で、わかくさ・下有知東線、下有知西線、小瀬線については、関市のバス運行評価において運行形態の見直しを行うという結果が出ました。それを受けて上記 3 路線の運行エリアにタクシー車両を利用したデマンド運行を今年度導入しました。



「シティバス・定期乗車券の導入」（市民協働課）

概要）公共交通の通学利用者を増加させるため、バス定期乗車券の導入を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	定期乗車券の導入により利用者の若干の増加は期待できますが、通学利用者の運賃を割引くことによる収入が減少することが考えられます。したがって、関市シティバスの定期乗車券の導入は、現状では効果が低いと思われるために、今後、慎重に検討していきます。なお、現在、シティバスの回数券（100 円券が 11 枚綴りで 1,000 円）を販売していますので、市民周知を行い回数券の利用促進を図っていきます。



「関シティバス・市民サポーター制度の導入」（市民協働課）

概要）持続可能な公共交通を実現するため、市民サポーターによる支援組織を設置することを提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	長良川鉄道につきましては、マイルール意識、存在の意義について市民の方に理解をいただいて様々な形で市民の皆さまからサポートしていただいておりますが、シティバスについてはまだその意識が薄いのが現状です。地域の公共交通を確保するために関シティバスの利用しやすい仕組みや路線を考え、改善を行っていく中で、関シティバスをはじめとしたバス交通の必要性を理解していただくことが優先だと考えています。

現在はバス車両を利用した広告掲載によって一部サポートをしていただいていますので、企業や店舗に対して広告掲載を募集しています。

提案
9

「関シティバス・観光事業との連携」（市民協働課）

概要）新たな利用者を増やすため観光事業との連携を提案します。1日フリー切符の導入、公共交通で楽しむ関市観光ガイドブックの作成、乗車特典等。

結果	不採用
担当課からの回答	平成26年4月に完成した関シティターミナルの待合所には、観光案内板や特産品販売のショーケースを設置し販売を開始しました。関シティターミナルの乗継拠点としてのPRおよび、シティバスを活用した観光ルートとバス路線図をまとめたガイドブックの作製を行い、関市観光協会と協力し、今後関シティバスを観光利用につなげていきたいと考えております。なお、1日フリー切符の導入は、利用者数や利用料金などの面で効果が低いと考えられますが、今後の課題として研究します。

提案
10

「長良川鉄道・トロッコ列車の復活」（市民協働課）

概要）観光目的の利用者を呼びこむ目玉として、かつて存在したトロッコ列車の復活を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	平成26年3月に沿線市町職員で構成される長良川鉄道再生研究会から沿線市町首長(取締役)に対して観光用車両の提案を行いました。 長良川鉄道からは導入に当たり、コスト面の詳細な分析、調査や線路等施設の耐久性調査等様々な課題があるという回答を得ています。 現在、トロッコ列車ではありませんが、観光列車の導入に向けて準備を進めています。

【第2期】

提案 1

「将来の想いに火を灯せ（カタリバ等の実施）事業」（学校教育課）

概要）市内の中高生を対象に認定NPO法人カタリバを招いて講演会またはカタリバ体験会を開催し、将来を話し合う対話スタイルについての理解を深めます。継続的に関市内で実施していくための実行委員会を組織し、その市民ボランティアを広く募ります。

結果	不採用
担当課からの回答	高校生に有効だと考えるので、市の教育委員会として働きかけることができる関商工高等学校に、キャリア教育の一環として紹介できます。

提案 2

「キャリア・コーディネーター設置事業」（学校教育課）

概要）より充実したキャリア教育を、より円滑に行うために「キャリア・コーディネーター」を学校に配置します。キャリア・コーディネーターは、生徒の相談対応や学校と企業等との調整役を果たします。

結果	不採用
担当課からの回答	キャリア教育に外部人材を登用して充実を図るということについて、内容や方法を十分に検討した上で実施を考えたいです。 今年度は、トップアスリートを招いて夢をかなえることの大切さや、夢をかなえるために努力することの大切さを学ぶ「夢教室」をキャリア教育の一環として開催します。

提案 3

「関市版キッズニア事業」（学校教育課、商工課）

概要）子ども向け職場体験型テーマパークが都市で人気です。そこで関市でも市内に様々な職種・職場があることを活用し、子どもたちに地域にある職場で仕事を楽しく体験してもらいます。「ハサミを組み立ててみよう」「ミシンを踏んでTシャツを作ってみよう」等、関の産業を見ることは郷土教育にもなります。

結果	不採用
担当課からの回答	小学生の職場体験は、職業を疑似体験することに矮小化されないよう配慮することと、児童の発達段階を考慮して、慎重に進めるべきと考えます。また、中学校で行っている職場体験との共通点や相違点を明らかにして、検討する必要があります。また、国の教育改革の動きが加速しており、この事業の優先順位は低く実現できません。(学校教育課) 関市でテーマパーク的に集約して、多様な職業を体験できるようなメニュー化は難しいと考えます。今年度は「関の工場参観日」を夏休み期間(8月26日～29日)に設定し、子ども向けのメニューも多数用意しているので、ぜひ参加していただきたいと思います。(商工課)

提案
4

「キャリア教育の日の制定(学校教育課)」

概要) 市民みながともに話し合い、高め合う日としてキャリア教育の日の制定を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	キャリア教育に対する市民への啓発にはたいへん有効な提案であると考えます。具体的な活動内容について、学校等との調整を図りつつ、実現に向けて検討したいと思います。しかし、学校はそれぞれの地域の実状に合わせた地域との連携した事業に取り組んでいるため、関市全体でキャリア教育の日を制定するのではなく、各学校が取り組むべき事業に優先順位をつけて取り組むことが重要と考えます。(学校教育課)

提案
5

「市長、部長インターンシップ」(職員課)

概要) 関市内の若者に、関市長、部長へインターンシップする事業を提案します。

結果	採用
担当課からの回答	提案された内容を実施可能な形にするため、募集人員、期間、交通費について一部修正させていただき、今年度実施予定です。活動報告会については、まちづくり市民会議のみなさんが主体となって開催を検討していただきたい。(職員課)



「学生による投票率アップチームを結成」（総務管財課）

概要）若者の投票率を上げるために、学生による学生に向けた投票率アップを訴える広報を考える事業を提案します。

結果	採用
実施状況	平成26年度、学生を公募し、学生による啓発グループ「ikomai プロジェクト」を結成しました。成人式や関まつりで投票率アップのための啓発活動を行いました。（総務管財課）



「高齢者いつでもサロン」（市民協働課、高齢福祉課）

概要）高齢者が集まるために、誰もがいつでも気軽に立ち寄れるような常設の談話室のような空間「高齢者いつでもサロン」を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	高齢者にとってたまり場は必要不可欠な場所であるため、市が取り組んでいる地域委員会（概ね小学校区を単位として設置）の取り組みとして提案していきたい。（市民協働課） 提案にある場所での常設サロンの開催は困難であると思われます。現在常のサロンとしては、高齢者たまり場創造事業のモデルとして、シルバー人材センターに委託している「にこにこサロン」を本町で開設しています。歩いて行けるような身近な地域ごとのサロンとしては、社協支部の活動を地域委員会や老人クラブ、まちづくり委員会などと連携し、地域の実状に合った開催を検討する必要があります。（高齢福祉課）

提案
8

「好きなことバンクと助け合いポイント制度」（企画政策課、高齢福祉課）

概要）高齢者の好きなこと、得意なことを登録した「好きなことバンク」の設立と、日常生活の助け合いを気兼ねなく行うために「助け合いポイント制度」を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	対象者を高齢者に限らず、ボランティア活動が広く市民に普及する仕組みを、地域通貨の導入と併せて研究していきます。（企画政策課） シルバー人材センターに委託している「ワンコインふれあいサポート事業」と重複する部分があるように思われるため、事業の棲み分けを十分検討する必要があります。社協や市の関係課とも協議をしながら、導入できるかどうか検討します。（高齢福祉課）

提案
9

「地域コーディネーター育成事業」（高齢福祉課）

概要）提案7、8の事業を行うためには、高齢者の取りまとめ役となるコーディネーターの存在が不可欠です。地域コーディネーターの育成事業を提案します。

結果	不採用(既存の事業を拡充します)
担当課からの回答	まずは、高齢者自らが、自分たちが主体となり、地域づくりをしていくという意識づくりが重要であると考えています。生産年齢の減少により、労働力はますます減少するので、元気な高齢者に頑張っていただき、支援の必要な高齢者の支えになっていただきたい。持続可能な社会を存続するために元気な高齢者の力を期待しています。（高齢福祉課） 地域リーダーの育成事業として「地域づくり型生涯学習コーディネーター育成研修」や「まちづくりリーダー養成事業」に取り組んできました。新たに事業を立ち上げるより、この事業に高齢者の視点を取り入れた内容を位置づけ、講座受講後の実践の場を提供します。（生涯学習課）

提案
10

「幸せ創造授業」(学校教育課)

概要) 子どもの頃から人口減少時代の幸せについて考えることを定期的に行うことが大切です。小中学校で、人口が減って行く現状を教え、その後、その世界で「自分が幸せに暮らすために」について考える時間をとります。

結果	不採用
担当課からの回答	学校教育でぜひ取り上げたい内容です。実施方法は各学校の判断に任せますが、家庭教育学級説明会や校長会等において幸せ創造授業の実施を提案します。

提案
11

「幸せ実現企業」(商工課)

概要) 提案 10 で出た中学生からのアイデアを関市の企業が本気で実現する場合「ビジネスアイデアコンテスト」を提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	「ビジネスプラス展 inSEKI」の場を活かす事が有効であるとの提案なので、秋に初めて開催する「関の工場参観日」も含め、実行委員会を組織しているので、提案の報告をしながら検討してまいります。(商工課)

提案
12

「幸せ応援行政」(商工課)

概要) 提案 10、11 を取り組む上で、行政が金銭的、人的にサポートすることを提案します。

結果	不採用
担当課からの回答	企業の商品開発のために補助することは難しいと考えます。提案事業2にあるような子どもたちのアイデアコンテストと連動した支援を検討します。

【第3期】

提案
1

「関のグルメの新提案 関デカ盛りプロジェクト」(観光交流課)

概要) 各種飲食店が、常人では到底食べることができないその店オリジナルの“デカ盛りメニュー”を考案し提供する。その各店がチームとなり、さまざまな情報発信から誘客、経済活性につなげます。

結果	現状、不採用
担当課からの回答	今回ご提案頂いた企画やコンセプトについては、市（行政が）中心となって実施するものではなく、熱意ある各店舗や商店街等との連携により実施するものと考えます。提案のありました事業について、各種店舗が集まる観光協会等において意見を聞き、連携して取り組んでまいります。 →（現在の状況）今のところ関係業界からの反応はないが、次回の観光協会総会で意見を聞いたり、各種業界に文書などで照会しながら、反応を見ていきたい。

提案
2

「小瀬鵜飼コンパ開催」(観光交流課)

概要) 千有余年の伝統漁法「小瀬鵜飼」が行われる小瀬鮎の里で、男女が出会う機会を創出。幽玄なかがり火が、燃え盛る恋の炎に変わります。

結果	現状、不採用
担当課からの回答	小瀬鵜飼保存会、観覧船事業を運営している関遊船株式会社、そこにかかわる船頭さんら関係者と、今回の提案について情報提供し意見交換を行います。また、鵜飼婚活の実施の際には、生涯学習課（公民館）における婚活施策や街コンを行う団体とも連携したいと考えています。 →（現在の状況）今のところ反応はないが、引き続き、小瀬鵜飼保存会、観覧船事業を運営している関遊船株式会社、船頭さんら関係者と意見交換をし、実施に向けて検討を重ねたい。



「わかもの活躍サポートセンターの設置」（市民協働課）

概要）市内に点在し、活動時間も様々な若者を集めるにはどうしたらよいのでしょうか。高齢者のたまり場作りが進められているように、若者のたまり場ともいえる施設を設置してはどうかと考えました。

「若者まちづくり会議の開催」（市民協働課）

概要）関市まちづくり市民会議は多世代の集まりです。若者にスポットを当てた、福井県鯖江市のJK課や全国各地で開催されている“若者会議”を関市でも設置してはどうかと考えました。

結果	採用
担当課からの回答	この関市市民活動センターにおける若者支援の役割を強化させることは重要ですので、若者に特化した事業を来年度から試行的に実施します。 →（現在の状況） 今年度、市民活動センターが若者まちづくり会議を実施予定です。 また、今年度より関市では、市内の高校生（主に関、関有知、関商工）を対象とした若者協働推進事業「まちづくり倶楽部」が始まりました。毎月テーマの異なるイベントに参加し、関市やまちづくりに関することを気軽に楽しく学んでもらうことで、将来のことを考え積極的に活動できる若者を育成することをねらいとしています。継続的な事業を予定しており、長期的には、市政に対する協力・提案など、未来の関市のリーダーとなる若者を育成していきたいと考えています。 また随時、参加する高校生からの提案・意見を受け付けており、毎月のイベント内容に反映していく予定です。



「新ブランド『刃モノ一生モノ』の設立」（商工課）

概要）新ブランドとして『刃モノ一生モノ』を立ち上げます。「一生使える物」という絞り込みを行い、企業から「一生使える刃物」、「一生メンテナンスの約束ができる刃物」公募し、外部認定委員会が認定します。

結果	現状、不採用
----	--------

担当課からの回答	→（現在の状況）関市の刃物は高い評価を受けておりますが、企業ごとでブランド展開されている場合が多いかと思えます。しかし最近では、今治タオルなど産地ブランドが浸透してきておりますし、刃物会社様とはビジネスプラス展、工場参観日、はもけんなどの行事も含め関係を持っております、今後もブランディングについても引き続き意見を聞いていきたいと考えております。
----------	---

提案
5

「関は『刃物を使う町』『刃物を贈る町』として
市民からムーブメントを起こす事業」（商工課）

概要）関市民は刃物を使うまち、贈るまちであることのムーブメントを作ります。刃物のまちとして、市民が使うこと、贈ることを気に留め、行動に移すことで、市民の取り組みが話題を呼び、外部に向けた関市自身のブランディングへの一役となります。

結果	不採用
担当課からの回答	→（現在の状況）市では、伝統的な刃物が市民の皆様にとって、より身近に感じていただけるよう「ビジネスプラス展、工場参観日、はもけん」など刃物を身近に関われるイベントを行っています。これからも市民の皆様のムーブメントに合わせて、取り組んでいきたいと思えます。

提案
7

「わがまち防災会議の開催」（危機管理課）

概要）市全体ではなく、小学校区単位で防災会議を開催する。地域住民が、地域で起こり得る災害について話し合い、避難方法など行動計画をつくることを3年毎に実施する。

結果	現状、不採用
担当課からの回答	地域で起こりうる災害を学び、訓練が実施できるよう、地域委員会や自治会連合会支部などに対して、先進地区の事例などを紹介したいと考えます。また、すでにある防災訓練補助金を有効に活用いただき、防災会議等が実施できるよう要綱の見直しや予算確保に努めます。さらに、提案をいただきました防災会議の講師紹介なども、市として積極的に行います。 【回答】 →（現在の状況）多様な訓練を行っていただけるように防災訓練補助金要綱を見直し、予算の確保を行いました。また、岐阜大学内に設置された「清流の国ぎふ防災・減災センター」に講師派遣の協力を依頼しました。

提案
8

「運転免許更新時における災害 DVD の視聴」（危機管理課）

概要) 運転免許更新時の交通安全講習会に交通安全啓発用 DVD とともに防災啓発用 DVD を視聴してもらう。運転免許保有者は、毎年ではないものの必ず 3 ～ 5 年に 1 度受講するため、防災意識を向上させる良い機会となる。

結果	不採用
担当課からの回答	関市で実際に発生した災害を題材とする DVD については、防災を身近に考えるための教材として活用できると考えますので、DVD の制作を検討します。 →（現在の状況）関市で実際に発生した過去の災害の調査を行うだけでなく、関市で起こる可能性の高い災害についても調査を行い DVD 製作の検討を進めます

提案
9

「非常食を活用した料理コンテスト・料理教室の開催」（危機管理課）

概要) 行政が備蓄している災害用非常食を使った料理コンテストや料理教室を開催する。消費期限が到来する災害用非常食を防災訓練などで単に配布することよりも有効活用することができる。

結果	不採用
担当課からの回答	→（現在の状況）非常食を使った料理のレシピは、既に多く公表されており、その中から関市が備蓄している非常食などを用いた料理について、防災訓練などの各種イベントで紹介できるよう検討しています。

・ 大学生に関を知ってほしい ・

私たちが目指す関のまちづくりの宣言文

私たちの目指す姿は、「関の大学生 が関を知っている」という関市です。

そのために、「大学生の関を知らないという課題」に取り組むことにしました。

課題の原因は、「動画、アプリの発信がない」、「若者が興味を持つ(遊ぶ、

食べる、異性)企画がない」、「若者の生態(居住地、空き時間)を

知らない」ですが、今回は特に、「若者が興味を持つ(遊ぶ、食べる、異性)

企画がない」に対して取り組みます。

これを解決するために、行政、企業、市民活動などの他組織の活動を踏ま

え、私たちは「大学生がチームにいる」という強みを生かし「学生が遊ぶプラ

ンを提案する」事業をすることで、関市の課題解決にもっとも貢献すること

ができると考えています。

だから私たちは「学生が遊ぶプランを提案する」することで「関の大学生

が関を知っている」という関市を実現します。

I 取り組んだ課題

大学生が関のことを知らない。

【その理由と根拠】

このテーマにおける課題の原因は何か、部会メンバーには、現役大学生が2名、20代が2名いたことから、部会内でワークショップを行いました。そこで出たのが以下の3つの課題です。

1. 若者が使うツールを使えていない

若者の情報源は多くがスマートフォンやWEBサイトであり、知りたいことがあれば「まずググる」ということが当たり前になっています。しかし、まだまだ関市の情報は若者が普段見るような動画やアプリでの発信が多くありません。

2. 若者が興味を持つ（遊ぶ、食べる、異性）の企画がない

なかなか若者への関市の情報がないこともありますが、関のまちに関わるきっかけとなるイベントも多くありません。大学生曰く、若者が興味を持つのは、遊ぶ、食べる、異性。その分野のイベントが少ないのが、課題だと考えます。

3. 若者の生態を知らない

地域の人からの「若者に参加してほしい」という意見は多く聞かれます。しかし、企画の日時、場所等から合わないことも多くあります。関市のどの場所に若者が多く住んでいて、学校のテストや実習がいつあるのか等、若者の生態を把握した上で企画を組むことが大切です。

今回は、「2 若者が興味を持つ（遊ぶ、食べる、異性）の企画がない」に取り組むことにしました。

チーム「大学生が知らない関の世界」

Ⅱ 取り組んだ活動

大学生のためのディープな関の居酒屋ツアー

関市の大学生のための「ディープな関の居酒屋ツアー」。最近チェーン店ばかりに行っていないませんか？ぜひこの機会に、関に魅力あるお店がたくさんあることを知ってください。

日時：平成 28 年 6 月 3 日(金)18:00～21:00

場所：西コース 和おん→ニュー関

東コース ほっとこ→我も幸→メは丸長

対象者 20 歳以上の大学生

定員 各コース 10 名

会費 4000 円



関市の大学生のための「ディープな関の居酒屋ツアー」を開催します。最近チェーン店ばかりに行っていないませんか。ぜひこの機会に、関に魅力あるお店がたくさんあることを知ってください。

大学生のためのディープな関の居酒屋ツアー

日時 **6/3(金) 18:00～21:00**
場所 西コース 和おん → ニュー関
東コース ほっとこ → 我も幸 (希望者はメは丸長)
対象 20 歳以上の大学生
【定員】 各コース 10 人 (先着順)
【会費】 4,000 円

滞在時間は 1 店 1 時間ほどを予定しています。

申込受付は **5/30(月)** まで。
楽しく飲んで語り合いましょ！

実施エリアお申し込み・お問い合わせは、下記まで。
【問合せ・申込み】
関市市民活動センター
関市千早町 2-18-1 安藤ふれあいセンター 1F
☎ 0575-24-7772
✉ info@seki-siminkatudo.com
こくちーずからの申込が簡単です！
<http://kokucheese.com/event/index/39710>
サイトの QR コードはこちら→

【主催】
関市まちづくり市民会館チーム「大学生が知らない関の世界」

《実施結果》

参加者 10 名参加

チーム「大学生が知らない関の世界」

東コース記録

1、ほっとこ メニュー引き出し鍋、だし巻き卵等



2、我も幸 じゃこサラダ、照葉樹林



3、ゞは丸長



チーム「大学生が知らない関の世界」

Ⅳ その成果と見えてきた課題

《成果》

- ① 大学生が新しいお店を知りたいというニーズはある
実際に参加した人は少なかったが、声をかけると好意的な学生が多かった。また、参加してくれた大学生はかなり満足度も高い。
- ② 店主にも若者に来て欲しいというニーズがある。
今回、協力してもらったお店が全てとても好意的であり、趣旨に対して全面的に共感してもらえた。

《課題》

①人が集まらなかった

- ・ 対象者を絞りすぎた（実質大学 3 年生と 4 年生のみ）。昨今、大学という場がお酒に対して敏感であるためなかなか協力を得ることが難しい
- ・ ツアーとしたので、大学生にとっては高い金額となった
- ・ 足がない。大学生にとって時間と場所が合っていなかった
- ・ イベントにする必要はなかった。日常的に魅力あるお店に学生がいくための情報発信等が有効かもしれない。

《まとめ》

大学生にも、関市内のお店にも、ニーズのある取り組みであることがわかりましたが、今回は手法に反省点がありました。課題に述べた通り、「学生の生態」を良く理解した企画となっていない感がありました。若者自身が主体的に企画に入って作り上げていくことが必要だと考えます。

Ⅴ 提案と提案理由

提案 1	関市の魅力的なお店を書いた情報紙を学生が中心に作成。それを入学式に配布する。
提案する課	市民協働課
概要	現在、岐阜医療科学大学では、学生自治会が中心となり、関市のお店情報を作成し、それを入学生に配布しています。それを、関市全域に広げては如何でしょう。市内の大学生とサポートする大人が集まり、「チェーン店だけではない、関の魅力的なお店」の情報紙を作成し、関の大学、専門学校の新入生全員に配布します。

チーム「大学生が知らない関の世界」

提案理由	学生にとって、先輩の情報が一番の情報源であり、安心感があります。今回企画で反省したように、学生目線で学生自身が考えてもらうことがより有益な情報となると考えます。
------	--

提案2	若者向けにアプリ、メールでの関のお店情報の配信を（安心メールを活用）
提案する課	市民協働課、危機管理課
概要	安心メールの選択項目の一つとして、「若者向け、市内の魅力的なお店の紹介」を追加します。定期的に、お店の記事が配信される仕組みです。配信される情報は、提案1等で作成したもの等が考えられます。この情報を配信するための学生チームをつくることも有効だと考えます。
提案理由	若者は紙媒体を読むことが少なくなっています。スマホに入ってくる情報の方が学生に届けられる率が高くなると考えます。 また一方で防災、災害等の情報を配信している安心メールは学生にも登録してもらうことが望ましいですが、安心メールの学生への認知度は高くありません。安心メールに若者望んでいる関市のお店や遊ぶ場所等の情報を追加することで、それをきっかけに、メールを登録する人も増えると考えます。

V 今後の展開

今後の展開として、部会出たアイディアを記しておきます。

① 居酒屋を回るバスを作ってはどうか

居酒屋で飲むときに足は大きな問題です。協力してくれる居酒屋、カラオケ店等に呼びかけて、提携店舗を回るバスを作ってはどうか。

② 居酒屋だけではなく、スイーツのお店を学生に紹介する企画を

今回企画までしましたが、実施できなかったのが、スイーツ巡りです。関市には美味しいスイーツのお店がたくさんあります。居酒屋では女性を呼ぶことは難しかったですが、スイーツで女性向けに企画をつくることができると考えています。

③ 学生向けのセット割引を作ってくれるお店を増やしていく

学生証を提示すれば、サービスが受けられるお店や、学生セットのようなメニューを作ってくれるお店を増やしていってはいかがでしょう。このようなお店が増えることで、学生がお店に行くきっかけとなり、ひいては、関市が学生に優しいまちになれると思います。

路線バスで観光を！

私たちが目指す関のまちづくりの宣言文

私たちの目指す姿は、「たくさんの観光客が立ち寄りやすい」という関市です。

そのために、「公共交通機関の観光客に対する不便さ」

という課題に取り組むことにしました。

課題の原因は「観光向け公共交通機関がない」、「観光地のPRが足りない」、

「観光客の受け入れ体制が整っていない」

（観光客の集約方法ができていない）」ですが、

今回は特に、「観光向け公共交通機関がない」に対して取り組みます。

これを解決するために、行政、企業、市民活動などの他組織の活動を踏まえ、
私たちは「市民目線」という強みを生かし「シーズン・食べ物を取り入れた観光コースをつくる」事業をすることで、関市の課題解決にもっとも貢献することができ
ると考えています。

だから私たちは「シーズン・食べ物を取り入れた観光コースをつくる」することで
「たくさんの観光客が立ち寄りやすい」という関市を実現します。

I 取り組んだ課題

観光向けの公共交通機関がない

【その理由と根拠】

このテーマにおける課題の原因は何か、担当課を交えながら、部会メンバーで議論しました。

1. 観光客向けの公共交通機関がない

関市は自家用車で来るには大変交通の便がいい場所です。しかし、公共交通機関となると、大変不便になります。また、例え、関市に長良川鉄道や高速バス等で来ていただいたとしても、そこから観光地へ行くための交通手段がありません。関市は自家用車でしか観光できないまちとなってしまうています。

2. 観光客の受け入れ体制が整っていない

近年、日本刀はじめ海外から関が注目されていますが、海外対応となっているお店等が多くありません。また、観光協会を関市観光課が兼任している等、まだまだ観光を推進していく体制が整っているとは言えないと考えています。

3. 観光地の PR が足りない。

近年は、モネの池、五郎丸大仏等が話題になりましたが、そこからの波及効果はまだまだ限定的と言えます。

今回は、「観光客向けの公共交通機関がない」に取り組むことにしました。

チーム「KJB（観光循環バス）計画」

Ⅱ 取り組んだ活動

「路線バスで板取の旅～関シティーターミナルから板取への日帰り旅行～」

日時：平成28年6月20日（月）～30日（木）平日のみ

関シティーターミナルから出ている路線バスを乗り継いで板取へ日帰り旅行をするモデルコースを作成。期間内は通常往復600円かかるところ400円でバスに乗れる。

モデルコース 2パターン

①板取温泉・モネの池コース

②21世紀の森・モネの池コース

○経緯

今ある路線バスの活用を考えました。メンバーで関市内の観光地をあぶり出し、まずは、板取に路線バスで行ける観光コースを考えました。

平日、休日の両方で観光コースを立案。立案したモデルコースを実際にメンバーで試しました。その結果、休日は、バスの本数が少なくなる為、板取の1ヶ所しか行くことができないことが分かりました。その為、休日のコースは諦め、平日のみのコースを企画することになりました。

乗車日

2016.6.

路線バスで板取の旅

ツアーチケット No. 002

主催 関市まちづくり市民会議



<お問合せ先>
関市市民活動センター
☎ 0575-24-7772
info@seki-siminkatudo.com
岐阜バス関営業所
☎ 22-2255

関シティーターミナルから板取への 日帰り旅行！

「路線バスで板取の旅」のご案内

関シティーターミナルから路線バスを乗り継いで、板取への日帰り旅行を楽しみませんか?? 期間内は通常往復 600 円の運賃が 400 円でバスに乗り継ぎます。この時期の板取は、温泉、モネの池、あじさい、株杉など見どころ満載! 路線バスを使って、ゆったり板取観光を堪能してください。

◆ ツアー開催期間 ◆

(平日のみ)

平成 28 年 6 月 20 日 (月) ~ 6 月 30 日 (木)

通称モネの池 (根道神社内)

PENTAX K-3 OZU RANICAR

運賃

通常
600円

→ 400円
(ツアー期間中のみ)



▲あじさい園 (イメージ)



▲通称モネの池 根道神社内

選べる 2 つのモデルコース

1 食事も温泉も話題のスポットも楽しみたい欲張りな方には… 板取川温泉・モネの池観光コース

10:38 関シティーターミナル出発 【関板取線】	10:38 関シティーターミナル出発 【関板取線】
11:35 ほらどキウイプラザ	11:35 ほらどキウイプラザ
11:49 ほらどキウイプラザ出発 【板取ふれあいバス】	11:49 ほらどキウイプラザ出発 【板取ふれあいバス】
12:32 板取川温泉前【食事、温泉】	12:32 板取川温泉前【食事】
14:35 板取川温泉出発 【板取ふれあいバス】	13:40 板取川温泉出発 【板取ふれあいバス】
15:04 あじさい園前【モネの池】	13:48 21 世紀の森【株杉】
15:59 あじさい園出発 【板取ふれあいバス】	14:43 21 世紀の森出発 【板取ふれあいバス】
16:13 ほらどキウイプラザ	15:04 あじさい園前【モネの池】
16:31 ほらどキウイプラザ出発 【関板取線】	15:59 あじさい園出発 【板取ふれあいバス】
17:24 関シティーターミナル	16:13 ほらどキウイプラザ 【関板取線】
	16:31 ほらどキウイプラザ出発 【関板取線】
	17:24 関シティーターミナル

板取の自然を満喫したい方には…

21 世紀の森・モネの池コース 2

チケット発売場所

岐阜バス観光 (株) 関旅行センター (22-0303) 日・祝休

主 催 関市まちづくり市民会議

問合せ 関市市民活動センター

☎ 0575-24-7772 Email : info@seki-siminkatudo.com

関板取線…岐阜バス美濃営業所 (0575-33-2151)

板取ふれあいバス…関市板取ふれあいのまちづくり推進委員会 (0581-57-2220)

※板取ふれあいバスは上記以外にも 1 時間に 1 便の間隔でありますので好きな時間をお選びください。

①関板取線乗車券はご利用当日のみ有効です。(ご利用日を指定して頂ければ、前売り販売も可能です。)

②施設開館時間・休館日等はお客様にてご確認ください。

③発着後の払い戻し不可。

④交通渋滞などでバスが遅れる場合がございます。運行状況は各運行団体にお問い合わせください。



チーム「KJB（観光循環バス）計画」

《実施結果》

多くの反響をいただきました。

電話問合わせ件数合計 30 件以上ありました。

乗車人数 100 名（チケット売上枚数）

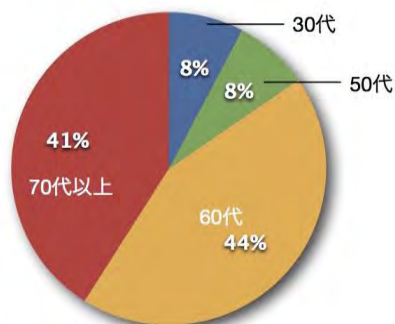
中日新聞に大きく掲載されました。

○アンケート

アンケート回収数 39 通

年代別

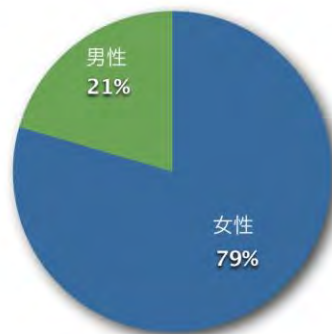
30代	50代	60代	70代以上
3	3	17	16



● 30代 ● 50代 ● 60代 ● 70代以上

性別

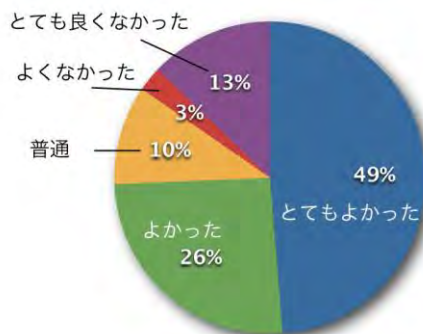
女性	男性
31	8



● 女性 ● 男性

満足度

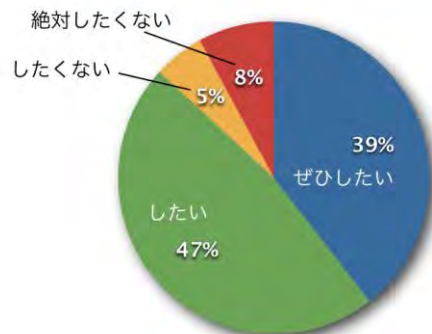
とても良かった	良かった	普通	良くなかった	とても良かった
19	10	4	1	5



● とても良かった ● 良かった ● 普通 ● 良くなかった ● とても良かった

また路線バスで旅をしたい

ぜひしたい	したい	したくない	絶対したくない
15	18	2	3

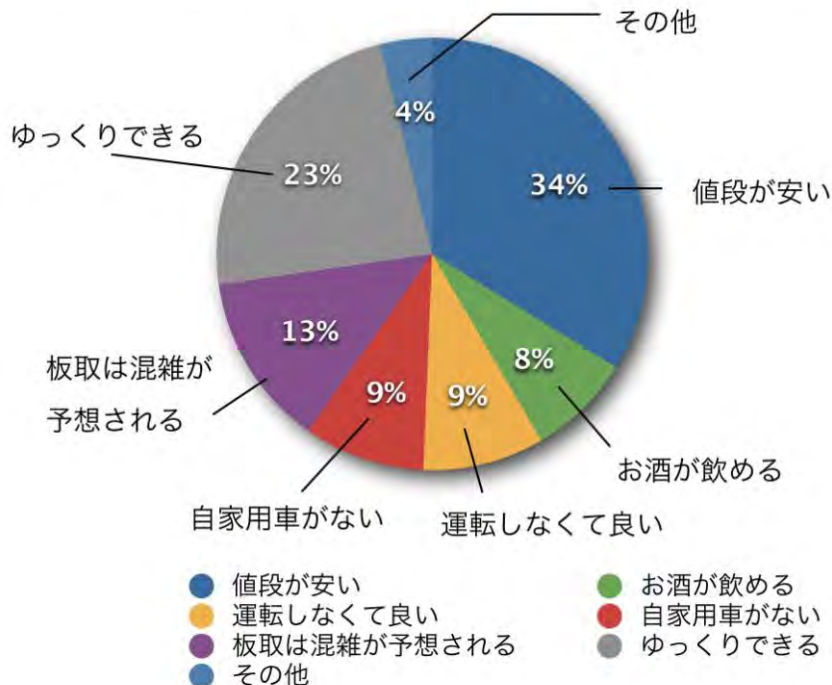


● ぜひしたい ● したい ● したくない ● 絶対したくない

チーム「KJB（観光循環バス）計画」

参加の動機

値段が安い	お酒が飲める	運転しなくて良い	自家用車がない	板取は混雑が予想される	ゆっくりできる	その他
26	6	7	7	10	18	3



○クレームの発生

板取川温泉はじめ、板取の多くのお店が水曜日休みですが、水曜日にツアーに参加して、どこも行くところがなく困った人たちからのお叱りを受けました。チラシには定休日はご自身でご確認くださいと明記していましたが、小さすぎて伝わっていませんでした。



IV その成果と見えてきた課題

《成果》

①60代以上の女性に路線バスで観光に行きたいというニーズがある

平日ということもあり、参加者の %が60代以上の女性でした。
その年代の方々の多くは、長距離運転をすることに抵抗のあり、

②「期間」を決めたことが良かった

今回、モネの池、あじさいのシーズンと板取に注目が集まっていたこともあり、たくさんの人に乗っていただけました。最終日には、駆け込みで参加した人が多く、乗車しきれない可能性があったため、臨時バスもでました。本来路線バスであるため、毎日乗ることができますが、今回、あえて期間を設けたことで、参加意欲を掻き立てることになったと考えます。

《課題》

①路線バスで行くことを理解してもらうことが難しかった

問合わせの多くが「チケットを下さい」というものでした。観光バスのように、チケットを持ってバスに乗りさえすれば、このモデルコースのように連れて行ってもらえると思っていた方が大半でした。特に70歳代以上の方には、チラシを詳しく読んでもらうことを前提とする事が難しいです。分かりやすい仕組みや表記にすることが必要です。

②路線バスの乗り方が分からない人が多い

普段から路線バスに乗ったことがない方が多く、乗り方が分からない人が多くいました。「降りる場所を最初に運転手に言わなかったので通り過ぎてしまった」等の意見がありました。

③岐阜バスとの連携

今回時間がなく無理に岐阜バスにお願いしたこともありましたが、運転手や窓口の人が今回の企画を知らず、お客さんが困ったとの声もありました。いくつかの団体にお願いする企画なので、ある程度時間をかけて合意形成していく必要があります。

《まとめ》

今回市内の60歳代以上の女性を中心に、自家用車以外でいける手段があれば市内の観光地へ行きたいというニーズがあることが分かりました。路線バスで行くことをはじめとする企画の趣旨や手法を理解してもらうことさえクリアにできれば、現在すでにある路線バス等を生かして、大きな労力や仕組みの変更をすることなく、ニーズにこたえる事業ができると考えます。

チーム「KJB（観光循環バス）計画」

V 提案と提案理由

提案 1	路線バスを使った観光モデルコースをつくる
提案する課	市民協働課、観光交流課
概要	今回の板取ツアーのように、現在既に走っている路線バスで観光できるためのモデルコースを作ります。季節ごとに、板取だけではなく、上之保や武儀へのツアーを作ります。例えば、桜の時期は寺尾、紫陽花の時期は板取、ゆず、ゆず湯の時期は上之保等。 対象者は市民だけではなく、長良川鉄道とも連携し、外からの観光客にも広がります。 住民目線でツアーが組めるように、市民協働課、観光交流課、長良川鉄道そして市民が協働でツアー内容企画する検討チームを作ってください。
提案理由	今回のテスト実施で、大変ニーズがあることが分かりました。また、板取だけではなく、別の地域にも行きたいという声も多くあります。これまで、担当課が違うという面もあるのか、路線バスと観光という視点での事業はあまり行われてきませんでした。路線バスの乗客増と観光客の増。それぞれで共通のメリットがあるのでこれを機にぜひ実施してください。

提案 2	路線バスで観光地に行くことを呼び水に、路線バスの乗り方講習会を開催
提案する課	市民協働課
概要	提案 1 の路線バスで観光の旅を企画する時、最初の 1 日目に、案内人もついでに路線バス乗り方講習会を実施。
提案理由	今回のテスト実施で、路線バスの乗り方が分からない方がたくさんいることがわかりました。それらの多くが、車に乗れなくなった時に公共交通を活用してもらいたい予備軍の方々です。まずは、乗り方を理解してもらうことが必要です。また、通常「乗り方講習会をやります」といってもなかなか集客が難しいと思います。今回の反響を考え、路線バスツアーと同時開催することが集客的にも参加者としても満足度が上がると考えます。

V 今後の展開

今後の展開として、部会から出たアイデアを記しておきます。

① 長良川鉄道との連携を

チーム「KJB（観光循環バス）計画」

今後、関市の観光には長良川鉄道がとても大切です。ただ、以前より観光地が駅から離れている事が観光化を困難にしていました。今回の路線バスの活用等がこの課題の一つの解決策になることを期待しています。

② 自転車との連携を

駅やバス停からさらに観光を楽しんでもらうためには、自転車が有効です。通常から、列車やバスに自転車を載せられるような工夫も期待しています。

生活の困窮する家庭の子どもの学力向上を！

私たちが目指す関のまちづくりの宣言文

私たちの目指す姿は、「すべての子どもが未来に夢と希望をもてる」

という関市です。

そのために、「生活の困窮する家庭の子どもの学力向上」

という課題に取り組むことにしました。

課題の原因は「塾に行けない、教材が買えない」、「勉強する場がない」、

「親が非協力的」ですが、

今回は特に、「塾に行けない、教材が買えない」に対して取り組みます。

これを解決するために、行政、企業、市民活動など他組織活動を踏まえ、

私たちは「意欲のある市民ボランティア」という強みを生かし

「無償学習支援」事業をすることで、

関市の課題解決にもっとも貢献することができると考えています。

だから私たちは「無償学習支援」をすることで「すべての子どもが未来に夢

と希望をもてる」という関市を実現します。

I 取り組んだ課題

経済的な理由による生活困窮者家庭の子どもの学力向上

【その理由と根拠】

・経済的な理由等で「就学援助制度」を受けている家庭の子どもが多い。要保護人数（生活保護世帯の子ども）＋準要保護人数（生活保護に準ずる世帯の子ども）合計数

関市の現状の把握

年度	要・準要保護受給人数（小中）	小中学生の人数	受給割合
H16	306 人	6,956 人	4.40%
H17	409 人	8,320 人	4.92%
H18	449 人	8,247 人	5.44%
H19	460 人	8,257 人	5.57%
H20	489 人	8,189 人	5.97%
H21	584 人	8,117 人	7.14%
H22	585 人	8,156 人	7.17%
H23	618 人	8,070 人	7.66%
H24	617 人	7,953 人	7.76%
H25	637 人	7,912 人	8.05%
H26	693 人	7,774 人	8.91%
H27	682 人	7,722 人	8.83%

学校教育課提供資料より市民会議が作成

受給割合が平成 16 年度から比べるとおよそ 2 倍に増えています。平成 27 年度では 11.3 人に 1 人が受給しています。

Ⅱ 取り組んだ活動

1. 視察と研究

まずは、チームメンバーで、NPO 法人仕事工房ポポロの学習支援の現場に視察に行きました。また、今年度から学習支援に取り組み始めた美濃加茂市社会福祉協議会の担当者からお話を伺い、実際の活動のイメージを膨らませました。

2. 講演会の実施

「岐阜における子どもの貧困と学習支援」

■日時：平成28年6月18日（土）13：30～15：00

■場所：わかくさ・プラザ総合福祉会館 3 階

■講師：中川健史さん（一般社団法人ぎふ学習支援ネットワーク共同代表、NPO 法人仕事工房ポポロ理事長）

■内容：この地域においても子どもの貧困の課題があることを市民に理解してもらうこと、そして、7月の学習支援のボランティアを募集することを大きな目的として実施しました。当日は、定員を超す参加者が集まり、関心の高さとともに、会場は熱気で包まれました。

■参加者：62名（目標60名）達成率103%

■ボランティア参加表明 7名（+検討中が5名）

■募金額：22,791円（のちにさらに30,000円個人の方から寄付いただきました）



チーム「子援隊（しえんたい）」

子どもの困窮と学習支援を考える 講演会

2016年6月18日土
わかさ・プラザ
総合福祉会館3F

開演 13:30
15:00 終演

現在6人に1人の子どもの貧困状態であると言われ、未来を担うはずの子どもたちに社会的な困難が降りかかっています。子ども時代の貧困は、その後の成長に大きく影響します。今、私たちにはどのような支援が求められているのでしょうか。



中川

健史さん

一般社団法人ぎふ学習支援ネットワーク共同代表、
NPO 法人仕事工房ボロ代表

岐阜県における 子どもの貧困と学習支援

定員60名(申込順、入場無料)

●わかさ・プラザ、総合福祉会館
岐阜県岐阜市東通子町1番地
●会場
岐阜市東通子町1番地「わかさ・プラザ」

お申込み・お問合せ

●電話 0575-24-7772
●メール info@shiki-shinriki.co.jp
●URL http://kokuchensa.com/event/index/398118/

お申込み・お問合せ
URL http://kokuchensa.com/event/index/398118/



子の学習支援
狙いを知って
関で講演会

子どもの貧困と学習支援について考える講演会が、関市わかさプラザであり、ぎふ学習支援ネットワーク共催「夏休み宿題お助け教室」を開くのを前に、現状や支援の狙いを市民に知ってもらうのを目的に開いた。

同代表の中川健史さんが登壇した。市の課題解決策を市民が考える「市まちづくり支援会議」の部会「チーム子援隊」が主催。七月に無料の学習支援「夏休み宿題お助け教室」を開くのを前に、現状や支援の狙いを市民に知ってもらうのを目的に開いた。

「多くの人で見守ってあげることが大事」と話す中川さん＝関市わかさプラザで

に、現状や支援の狙いを市民に知ってもらうのを目的に開いた。

市民ら六十人を前に、中川さんは学習支援について「ただ勉強を教えて終わりではない。支援を通じて家庭の問題などが見えてくる」と解説。「問題を把握し、子どもを孤立させないこと。多くの人で見守っていることを伝え、つながりを感じてもらうことが大事」と話した。

(織田龍穂)

平成 28 年 6 月 26 日 中日新聞中濃欄

2016年(平成28年)6月15日(水曜日) 16

中濃

夏休みの宿題お助け

関の「子援隊」来月無料教室

18日講演も 子どもの貧困テーマ

試し釣り「例年より大型」

白川のアユ 18日解禁へ飛騨川漁協

平成 28 年 6 月 15 日 中日新聞中濃欄

3. 夏休み宿題お助け教室の実施（予定）

- 日時：平成28年7月26日（火）～29日（金）9時～15時
- 場所：わかくさ・プラザ学習情報館2階和室
- 対象：関市内の要保護、準要保護の家庭の小中学生 20人程度→28人へ
対象生徒約500世帯へ案内文を配布
- 内容：夏休みの宿題、自主学習、体験教室等 詳細は次ページ
- スタッフ：教員OB、市民ボランティア
- 参加者：28名（小学生26人、中学生2人）
参加申込は62件
- ボランティア参加：31名（のべ62人）

チーム「子援隊（しえんたい）」

夏休宿題お助け教室タイムスケジュール

時 間 ・ 日 程	7月26日（火）	7月27日（水）	7月28日（木）	7月29日（金）
9:00～ 9:30	受入れ ・ 自主学習			
9:30～ 9:50	朝の会（朝礼）			
9:50～ 10:50	学 習	②体験学習 （料理教室） ◆カレーライス& デザート 講師 ・牛丸道子 ・佐藤恵美子 昼 食	学 習	学 習
10:50～ 11:05	休 憩		休 憩	休 憩
11:05～ 12:00	自主学習		自主学習	質 問 （読 書）
12:00～ 13:00	昼 食（提供） （米粉ピザ）		昼 食（提供） （お楽しみランチ）	④屋外体験学習 （場所：関善光寺） 昼食（提供） （お楽しみランチ）
13:00～ 13:50	①体験学習 （工作教室）	学 習	③図書館（1階） （読 書）	◆ウオーキング
13:50～ 14:00	◆ペーパークラフト 作り	休 憩	休 憩	◆座 禅 体 験
14:00～ 14:45	講師 伊藤 勝	自主学習	感想文の書き方 （読 書）	◆己 戒 壇 巡 り
14:45～ 15:00	帰りの会（終礼）			
				◆住 職 の お 話 し
				◆境内探索

- ・ 26日の昼食は、NPO法人ヘルシーライフせきより「米粉ピザ」を調理し提供する
- ・ 28日の昼食はチーム子援隊で「お楽しみランチ」を提供する。
- ・ 29日の昼食はNPO法人ヘルシーライフせきより善光寺において「お楽しみランチ」を調理し提供する。
- ・ 27日朝一番からの体験学習（料理教室）は料理実習室（2F）に移動して「カレーライス&デザート作り」の調理体験し、料理完成後引き続き昼食とする。

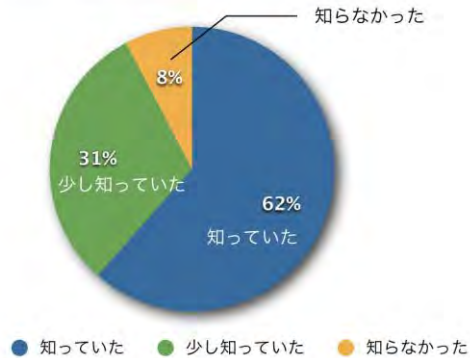
IV その成果と見えてきた課題

講演会の実施「岐阜における子どもの貧困と学習支援」のアンケート結果から考えました。

認知度

知っていた	少し知っていた	知らなかった
32	16	4

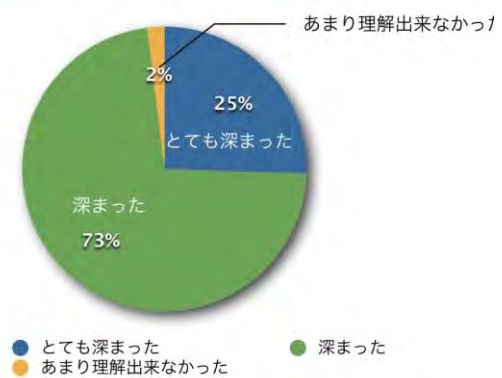
計 52 人



理解度

とても深まった	深まった	あまり理解出来なかった
13	37	1

計 51 人

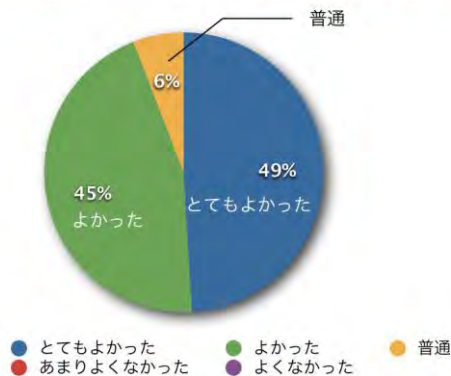


「もともと子どもの貧困の問題があることを知っていましたか？（グラフ左）」の問いには、参加者の **93%** が知っていたとの回答でした。この問題に興味のあった方々が参加いただけただようです。また、理解度として、**98%** の方が深まった、とても深まったと回答しています。

満足度調査

とてもよかった	よかった	普通	あまりよくなかった	よくなかった
25	23	3	0	0

計 51 人



満足度としても、**94%** の方がよかった、とてもよかったと回答していただきました。これらのアンケートから、子どもの貧困の問題がこの地域にもあることを知ってもらうという目的はある程度達成できたと考えます。

チーム「子援隊（しえんたい）」

【自由記述から抜粋】

- ・まずは、今日のお話を身近な人にも伝え、知ってもらい事からはじめたいです。
- ・学習支援が単純に学習支援だけでなく家庭が見える。何か寄り添うことが必要。
- ・子供の貧困には以前から関心がありましたが、実際の活動をしている方の話を聞くことができて良かったです。
- ・もっと多くの方、関係者に聞いてほしいと思える内容でした。行政は引き受ける、助成する仕組みを早く整える必要があるようです。
- ・孤立化を防ぐには社会的排除ではなく社会的包摂であること。自分一人で出来ることは限られているが、ネットワークをしたり、専門家としてつなぐこと、常にその人を見ていと伝えることが大切であると痛感した。
- ・一般的に生活レベルがより慣れてしまった今日、貧困者が見えにくくなっている。格差がありすぎているのに行政の支援が少ないように思う。
- ・参加者は実際に何らかの支援をしている方が多いと思うので、参加者同士の意見交換やワークショップの時間があってもよかったと思います。
- ・非常に重い課題ではありますが行動しなければ何も解決できないので少しでも前向きに考えて実施することが大切ではと思いました。

チーム「子援隊（しえんたい）」

《成果》

肝心の夏休み宿題お助け教室がまだ実施されていませんが、現状で考えうる成果を記します。

① 子どもの貧困問題への市民の関心はかなり高まっています。そして、そのために動いてくれる人がいます。

講演会の参加人数、参加者へのアンケートから、関市においても子どもの貧困の問題があることに関心をもっている方々はかなりたくさんいることが分かりました。また、夏休みボランティアに参加してくれる人が25人にもなったことから、実際にこの問題のために動きたいと考えている方もかなりいることが分かりました。

② 子どもの学習支援のニーズがかなり高いことがわかりました。

夏休み宿題お助け教室の申し込みが定員の3倍の62件になったことや、その保護者からの熱烈的な言葉から、子どもの学習支援へのニーズがすごく高いことがわかりました。また、講演会の中で講師が「現在岐阜市芥見のみどり病院で開催している学習支援に多くの関市の子どもが通っている」という実情もお聞きしました。

《課題》

① 子どもの学習支援の取り組みはまだ関市にはありません

成果としてあげたように、市民の中での関心や動いても良い方が増えていて、支援を求めている方々のニーズもかなり高いにも関わらずまだ関市では学習支援の取り組みはありません。

V 提案と提案理由

提案1	関市における貧困家庭の数を把握する「相対的貧困率」の調査をしてください。
提案する課	福祉政策課
概要	世界的貧困の指標である「相対的貧困率」で、関市の貧困家庭の実態調査をする。
提案理由	今回、「取り組んだ課題の理由と根拠」であげた数字は、実際に支援を受けている家庭の数字です。支援を受けていない世帯でも経済的に困窮している家庭はいるはずです。現在、相対的貧困率の調査をしている都道府県は沖縄県だけであり、最近、愛知県が調査に乗り出すことが報道されました。

提案2	学習支援を実施してください
提案する	福祉政策課、学校教育課

チーム「子援隊（しえんたい）」

課	
概要	定期的（週１回、２回程度）な学習支援を実施する。 定期的に実施していくためには、今回のようにボランティアのみでの運営は難しいと考えます。関市として予算化し、実施していくことが必要です。 市と今回のチームメンバーとボランティアメンバーの中から、今後も関わっても良い方でプロジェクトチームを発足し、内容を検討していくのはいかがでしょうか。 予算化に関しては、厚生労働省の「生活困窮者自立支援事業」のその他事業である学習支援に手を上げることを視野にいてください。また、美濃加茂市の学習支援では、岐阜県の「ひとり親家庭支援」の事業で実施しています。 また、その時には、ぎふ学習支援ネットワークにも加盟し、様々な相談やサポートをお願いしたいと思っています。 どのような形態が良いかは、「夏休み宿題お助け教室」が終了後、検証結果をとりまとめ、改めて提案します。
提案理由	本事業を定期的の実施するためには、行政の予算も必要ですが、市民のボランティアも必要です。今回の事業においてボランティアをやっていただける方々も顕在化できているので、市民と行政が協働して学習支援を進めていくことが可能だと考えます。

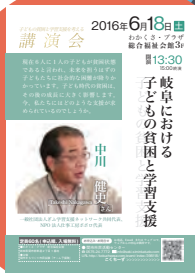
提案 3	子ども食堂を実施してください
提案する課	福祉政策課
概要	学習支援に合わせて全国的に広がっている子ども食堂を実施する。
提案理由	講演会において「給食のない夏休みに子どもが痩せる」状況があると聞きました。そういった問題を解決すべく、子ども食堂の実施も提案します。今回の「夏休み宿題お助け教室」では、４日間毎日食事を提供します。これは様々な団体や市民の方々の協力のおかげです。こういったボランティアの方々もいることが大きな強みとなると考えます。



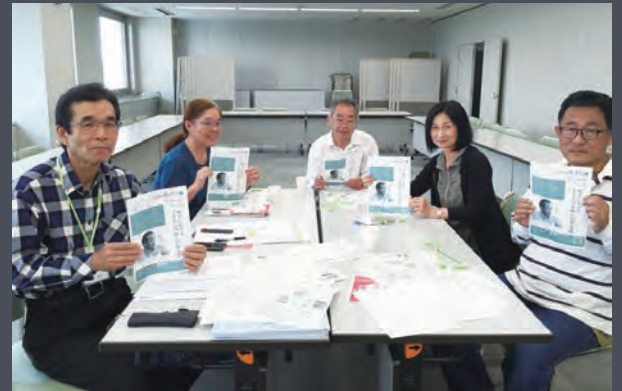
チーム大学生が知らない
関の世界のみなさん



平成 28 年 6 月 3 日
大学生のための
ディープな関の居酒屋ツアー



平成 28 年 6 月 18 日
講演会
「岐阜における子どもの貧困と学習支援」
7 月 26 日～ 29 日
夏休み宿題お助け教室



チーム子援隊のみなさん



チーム KJB のみなさん



平成 28 年 6 月 20 日～ 30 日
路線バスで板取の旅

第 4 期まちづくり市民会議

委員 チーム大学生が知らない関の世界：坂元広幸 (リーダー) / 包子賢一 / 佐藤敦
平川貴久 / 臼田好希 / 大場友貴
チーム子援隊：佐藤隆一 (リーダー) / 大野克幸 / 上野まゆみ / 多田富士夫
篠原良子
チーム KJB：早川貞子 (リーダー) / 長谷部雄也 / 古田進 / 山田銃次
後藤陽一郎 / 河合計美

発行日 2016 年 7 月 16 日

発行

関市まちづくり市民会議 (事務局：関市市民活動センター)
関市千年町 2-18-1 安桜ふれあいプラザ 1F
TEL 0575-24-7772 FAX 0575-24-7660
Email: info@seki-siminkatudo.com